

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問事業・にじいろバナナ		
○保護者評価実施期間	2024年 7月 1日		～ 2025年 4月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	2024年 7月 1日		～ 2025年 4月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○訪問先施設評価実施期間	2024年 7月 1日		～ 2025年 4月 30日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	12施設	(回答数) 12施設
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 5月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童の様子や環境(人・物)に合わせて、訪問時間や訪問員の選定、間接支援・直接支援等、ニーズに沿って柔軟に支援を行っている。	・保育所等訪問支援について、意義や目的、支援方法を事前に書面で説明を行っている。 ・訪問開始前に保育士や先生方と顔合わせを行い、対象児童の情報を共有したうえで、訪問先での課題と擦り合わせ、訪問時間や訪問員を選定している。	・繋がりのある支援や助言を行うために、対象児童の課題に関連する科目や活動に、介入できるよう訪問日程を提案している。
2	・多職種(保育士・小学校、幼稚園教諭、作業療法士等)の訪問員を配置し、対象児童の特性やニーズ、課題に合わせて訪問員を選んでいる。	・訪問時の支援内容を訪問員同士で課題や支援方法を検討し、次回の訪問支援に繋げる。 ・訪問先での課題を情報共有し、児童発達支援・放課後等サービスでの療育に反映させ、支援に繋げている。	・多様な視点を取り入れた支援を行うため、職種の違う訪問員へ変更したり、複数の訪問員で支援を行っている。
3	・専門用語を分かりやすく説明・記録を行い、理解しやすいように努めている。	・個別支援計画及び訪問時の様子や支援内容が、その日のうちに保護者へ伝わるような電子システムを取り入れている。	・保護者だけでなく、関係機関へ定期的にフィードバックを行っている。また、訪問先で統一した支援を行えるよう、書面にて説明し配布している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・訪問員によって、アセスメントの内容が異なるため、質が一定していない。	・訪問員が各々で課題の抽出や評価をしているため、伝達するうえでのツールがなく統一性がない。	・どの訪問員でも一定したアセスメントが出来る様、アセスメントツールを現在作成中。 ・誰でも使用できるようなアセスメントツールを活用し、統一した支援ができるよう取り組む。 ・会議や研修会へ参加し、事業所内で症例検討を行うことで、訪問員の質の向上に務める。
2			
3			